



きずな

野木町国際交流協会 (N | A)

発行 : 野木町国際交流協会 情報交流部
 所在地 : 栃木県下都賀郡野木町丸林571 野木町公民館内
 TEL 0280-57-4188 <http://www.nogitown.com>

野木町民参加のもとに、諸外国の方々との相互理解と友好を深めるための活動を行って、創立20周年を迎えました。

20周年を迎えて 会長 池田朝子



国際交流協会が今年、20周年を迎えることと成りました。今まで当協会に對しましてさまざまな視点からご支援、ご協力を賜りました。皆様に感謝と、御礼を申し上げます。

今から20年前の平成8年3月13日に設立されました。発足当時の経過につきましては別記で述べてありますが、中国の河南省との友好都市構想は文化、人的交流、経済交流等の関係上、町として友好都市は結ばませんでした。しかしその後、町としては諸外国との交流として、ラテンアメリカ美術展の開催事業、ミュンヘン放送交響楽団サロンオーケストラの町招聘事業に取り組み、野木中訪問、ホームステイの実施を行ってまいりました。

平成23年4月より当協会は民間の任意団体組織に変更となり、現在に至っております。民間の任意団体とはなりましたが、活動については町の補助金等を頂き事業を展開しております。そのような意味から、社会的責任の役割も課していかなくてはならないものと思っております。

当協会の発足当時から20年の間には社会情勢、経済状況とも大きく変化し、今は情報に於いては瞬時に世界の状況を得られるようになりました。

平成27年4月現在で野木町在住の外国人は21ヶ国227名であります。現在の当協会の活動内容としては外国の方のための日本語教室を開催、教室にはブラジル、アメリカ、マレーシア、インド、中国、バングラディッシュ、オーストラリア、インドネシア、ネパール、台湾等の方々が進んでおります。また、協会のHP、会報『きずな』春秋号の発行、公民館協働講座開設、生花、そば打ち等、行っております。昨年2014年度には、カンボジアのトラペアンルーン村に井戸を4基贈りました。現在も募金活動を継続し、さらに贈呈を進めてまいります。

今後は当協会としてはグローバルな世界市民との考えに立ち野木町に住んで良かったと思える活動を会員の皆様の協力を頂きながら進めてまいります。

20周年を祝う！ 名誉会長 野木町長 真瀬宏子



野木町国際交流協会が20周年を迎えられました事、誠にありがとうございます。この20年間たゆまぬ創意工夫をもって、色々な機会に国際交流を促進して下さった事に対しまして、心より感謝申し上げます。会員一人一人の国際交流に対する純粋なお気持ちが事業に生かせ、更に活動範囲が広がられるよう、町としましても出来るだけの支援をしていきたいと思っております。

私は短い期間ではありましたが、会長の座を仰せつかりました。殆ど会員の皆様の熱い思いに支えられて、会長職を無事勤めることが出来ました事をこの場で感謝致します。その時に強く感じた事は、国際交流を目指す時には、まず野木町を、ひいては日本を正しく理解してからでないと交流相手に不安を与えてしまうということです。また逆説的に捉えれば、我々日本人の現状を理解するためには、国際交流が有効であり、野木町や日本の「特色や長所短所」をよく認識するためにも国際交流は重要であると思えます。

会長任期中は、町内在住の外国人の方へ日本語を教える講座や交流会を開催して好評でした。更に我々も語学力を身につけようと数カ国語の講座を設定して色々な外国語に親しんで頂く機会を設けました。その結果、英語圏だけではなく近くて遠いハングルや中国語の入口に立つことも出来ました。又、外国に井戸を掘る国際的な支援活動にも力を入れ、野木町のネーミングが入った井戸等も贈ることが出来ました。これからも地道な国際交流を

積み重ねていくことがいずれ大きな実績に繋がると期待しております。

野木町の国際交流が町民の皆様自らの自発的協会となってからというもの、さらに自由闊達に活動されて、大きく飛躍する可能性が感じられます。益々のご発展を期待しております。20周年を心よりお祝い申し上げます。

創立20周年に寄せて 顧問 伏木 浩



野木町国際交流協会創立20周年おめでとうございます。協会設立に携わった一人として感慨深いものがあります。協会は発足15年が経過した平成23年4月1日、町の行政改革により民間の任意団体に組織変更となり、民営化の初代会長として協会を預かることになりました。当初は協会運営について手探りの状態でありましたが、役員各位の協力を得ながら試行錯誤を繰り返し、協会運営の基本となる規約・事業方針など協会としての形態を整えることができました。協会が現在、その運営方針に基づき国際化社会に対応した諸活動を積極的に取り組んでおり、誠に喜ばしく思います。

次に協会発足の基となった平成6年11月の公式視察以外の現地の様子について若干触れてみたいと思います。視察は町長以下4名で構成されました。目的地の河南省武陟県へのルートは、北京駅から最寄り駅である鄭州市までは電車を利用し、鄭州市からは車となります。当時、北京駅は構内・駅前広場ともに大きな荷物を持った地方からの出稼ぎの人たちで怖いくらい溢れていて、通行もままならないほど混雑している状態で、私たちは別の通用口から入場し夜行寝台特急で鄭州市に向かいました。翌朝到着し、ホテルに荷物を預け、迎いの県幹部の車でパトカーに先導され武陟県へ出発しました。途中、黄河を渡る時モヤがあつた広い黄河の川幅一杯にたれ込め、川面は全く見ることはできませんでした。道路は右側通行ですが、自転車・原付リヤカー・バス・トラックなどが道路幅一杯に互いに競うように走行しており、パトカー先導がなければ大変であったとの印象が残っております。

視察を終え、往きと同じ夜行寝台特急で北京に帰る途中の明け方、車窓より外を見ると線路の傍らに数え切れないほどスコップを持った工夫が一列に並んでいるのを見て驚いたことが思い出されます。滞在3日間晴れた日は一日もなかったと記憶しておりますが、文化的

な建造物は鄭州市近郊にもたくさんあり、県幹部の車で少林寺・中嶽廟など主に寺院を案内され、建物の素晴らしさにさすがに仏教の国である中国の歴史の重みに感銘した次第です。結びに、野木町国際交流協会の益々のご発展をご祈念申し上げます。



平成27年12月20日(日)、日本語教室で勉強している外国人生徒さん達と一緒に、蕎麦打ちを楽しみました。蕎麦打ちを終わった後に、外国人の生徒さん達とお話をしながら日本の味、蕎麦を味わいました。



平成28年2月13日(土)、14日(日) 野木町公民館まつりに出店および展示で参加しました。



「おもてなしの英会話」

Jason Crosland先生



1991年 オーストラリア、ブリスベン市生まれクイーンズランド大学卒業、2015年3月来日、現在南赤塚小、佐川野小で、ALTとして英語を指導。趣味は読書と日本語の勉強

3月に終了しました「おもてなしの英会話」は、グループディスカッションという方法で、参加者10名を3名から4名のグループに分けて、それぞれのグループがJason先生から与えられた題目で英語で討論し、その結果を英語で発表するという授業でした。参加者は、各自英語でプレゼンテーションする能力を要求されたので、レベル的には上級クラスになるでしょうか。Jason先生が、豪州の大学でグループディスカッションに慣れているのか素晴らしい指導力で、おもしろい授業でした。参加者の皆さんからも今後もこのような授業を続けてゆきたいとのことでしたので、2ヶ月位の間隔で、Jason先生から討論議題を出してもらい、グループディスカッションを行うことにしました。グループディスカッションにご興味をお持ちの方は、いつでもご参加できます。



マイ ヒストリー



【59年ぶりの帰郷】

私の名前は、ヤスコ・デ・オリベイラ・テラダです。私は、ブラジル人ですが、生まれは日本です。でも、日本での記憶は全くありません。一昨年の11月に59年ぶりに日本に帰ってきました。

私は、1956年8月3日に、熊本県熊本市釈迦堂の母方の祖母の家で生まれました。父の話によると、その当時の日本は、終戦後の社会的・経済的混乱の状態にあったとのことでした。そんな折、第二次世界大戦の開戦により中断されていたブラジル向け日本移民の送出国が、1953年再開されました。私は当時4ヶ月の赤ん坊でしたが、父母に連れられ、祖父母と父の兄弟たち親族一党15名で神戸港から「アフリカ丸」に乗船しパナマ運河を通り、60日かけてサンパウロのサントス港に到着しました。このサントス港で、長い船旅で知り合いになった人たちとも別れなければなりません。あるグループは、サンパウロから遠く離れた南西方面へ、またあるグループは東北方面へとサントス港から汽車に乗って散っていきました。私たち一家は、サントス港から船で、さらに南のリオグランデ・ド・スルへと向かいました。そこはサンパウロから1,200km離れたところでした。私の両親は、1年間の契約でファゼンダとよばれる大農場で、牛や馬の世話や、お米を作る仕事をしましたが、両親は牛の世話も農業も初めてだったので、とても厳しくつらい毎日だったそうです。その当時の私たち一家は、ポルトガル語を話すことも、理解することもできませんでした。1年間の契約が終わると、私たち家族は、リオグランデ・ド・スル州の州都であるポルト・アレグレ市の郊外に土地を借りて野菜を栽培することを始めました。その後、グラバタイという町に農地を購入して、トマトやキャベツやレタスを栽培しました。1960年という年は、首都がリオ・デ・ジャネイロから、ブラジルへと遷都されたときで、ブラジルの景気が非常に良い時でした。でも、それをつかの間で、1964年には、インフレが激しくなりました。軍が革命を起こして、軍事政権の時代へと入っていきました。（軍事政権は、この後、1985年まで続きます。）私は、このような環境の中で、7歳の時にブラジルの学校に入りましたが、クラスのブラジル人が言っていることが、全く解らなくて戸惑う毎日でした。私を助けてくれたのは一人のブラジル人の先生です。先生は、身振り手振りで、また絵を描いて、私がわかるまで教えてくれました。その先生のお蔭で、ポルトガル語を話すことと、書くことを覚えた

私は、勉強することがとても好きになりました。今でも、とても感謝しております。小学校から高校まで同じ学校で過ごしました。リオグランデ・ド・スル連邦大学では、数学と教育学を学び教員免許を取得し、大学院では、学校経営の資格も取得しました。同州立高校で33年間働きました。先生から始まり、教頭、そして校長を務めました。退職してから9年が経ちます。長女の夫が単身で日本に働きにきていたので、彼を手伝う為に、長女と二人の孫と4人で一昨年日本へ来ました。日本に着いた瞬間、私は日本の人とのコミュニケーションの難しさに直面しました。私の顔つきが日本人なので、日本人たちは普通に話しかけてきます。でも、私の頭の中は、ポルトガル語で、考え方はブラジル人です。いつもとても困惑します。日本で見つけた私の仕事は、つくば市にあるブラジル人学校での数学の先生です。幸いブラジルでの経験を活かすことができる仕事ですので、毎日楽しくやっております。この学校では、将来ブラジルに帰る子どもたちのために、ポルトガル語を使って勉強をしております。この学校は、ブラジル教育省の認可を受けており、子どもたちがブラジルへ帰国しても、ブラジルの学校へ編入できるようになっております。野木町国際交流協会の山田さんを通じ、同協会が行っている日本語教室を知りました。日本語教室では、ブラジル人の他に、インドネシア、バングラデッシュ、ネパール、マレーシア、台湾、アメリカやオーストラリア等々の人たちが、毎日曜日に日本語を勉強しています。私に日本語の読み書きや漢字の勉強をととても親切に教えてくださる鈴木先生は、私にとってとても貴重な先生です。私が住んでいたブラジルのリオグランデ・ド・スル州のポルト・アレグレ市と比べると、野木町はとても静かで清潔で、且つ安全な町です。私は静かなこの町が好きですし、周りの人たちもとても親切にしてくれます。でも、ブラジルには、主人と長男と次女がいますので、いつかは帰らなければいけません。ブラジルで待っている私の家族のことを考えると、さみしくなることもあります。今は野木町の生活を楽しんでおります。

—おわり—

編集後記

皆様のご協力により、創立20周年記念第9号を発刊することができました。心よりお礼を申し上げます。次回は秋季号の発刊を予定しております。Twitter、Facebook、ホームページで旬の情報をお伝えできるよう努めてまいります。よろしく願いいたします。

（発行責任者 伊東記）